

開催報告



トキと人の共生を目指した水辺づくり座談会 第10回 天王川自然再生ワーキンググループ

開催日：2016年9月8日(木)18:30~20:40

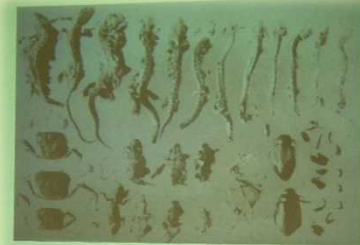
場所：トキのむら元気館 会議室

参加者：WGメンバー10名、傍聴4名

新潟大学の本間航介先生をお招きし、ビオトープの整備・管理など、自然再生の実践を踏まえた議論を行いました。

佐渡島内において、15年にわたりビオトープづくりや管理など、自然再生に取り組みおられる本間先生から、その豊富なご経験と知見に基づくお話をしていただいたうえで、メンバーとの質疑応答や意見交換を行いました。

これまで蓄積された成功例や失敗例、生物多様性のメカニズムなど、具体的なお話が聞かれ、実りの多いWGとなりました。



野生トキの胃内容物の例
昭和58年5月幼鳥・石澤島跡（山形鳥類研究所アーカイブス）



本間航介先生のお話の主な内容

- ・自然再生における、最終的な目標は“生物保持の機能”であることを念頭におくこと。
- ・中長期的に考えた時、最小の労力で生物を減らさずに環境をキープするという意味で現代的な使える手法は全部使うなど、管理性をかなり高い優先順位として考えるべきだ。
- ・トキの餌を分析すると水生と陸生が等しく入っているの、無理に水辺を広く確保しようとする必要はない。餌生物としての両生類を考えると林から水辺への生物の動線確保が重要となる。
- ・トキは水辺と陸地の境界線で餌を取るの、大きな水辺を1つ造るより、小さな水辺を複数造り、水と陸の接触距離を多くとることが望ましい。その意味で県の改善案は非常に望ましい。
- ・生物多様性の観点から「土側溝」と「深さの異なる水辺の組み合わせ」が重要である。
- ・この事業用地の土を再利用することで埋土休眠種子を活用した植生とすることができる。
- ・上流側は湿地として水がある程度自由に振る舞えるようにし、下流側は調整池的な機能を持たせ河川の管理上の機能を追求するという県の考えはとても良い。

意見交換会での主な質疑応答

Q：整備後の維持管理について助言があったらお願いしたい。

A：手に負えないのは地下茎を張り巡らせて5年10年と居座る多年草。これはユンボの爪で表面をなでることで地下茎をつり上げることが有効。耕起も有効であるが、水中を無酸素状態にし、水生生物を殺してしまうので行う時期や間隔に注意が必要である。

Q：植生のためこの地域の土を再利用する場合、どのくらいの深さの土を再利用すれば良いか。

A：水田(休耕田も含む)では、通称「盤」といわれる固い層より上の土を利用すれば良い。この層には多年草を避ける水田雑草の種が多く含まれている。

Q：現在の計画に対する評価をお願いしたい。

A：コンセプトはとても良い。昔使われていた林縁の灌漑水路をできるだけ土側溝として残すことで生物の多様性がより保たれるので工夫してほしい。

【今後の予定】

- ・整備計画について更に議論を進めるとともに先進地視察の報告を通じて維持管理のあり方を検討します。

天王川自然再生ワーキンググループの構成メンバー

◆地元集落：潟上集落、正明寺集落、田野沢集落

◆関係団体：佐渡生きもの語り研究所、トキどき応援団、潟上水辺の会、加茂湖漁業協同組合、佐渡島加茂湖水系再生研究所、生樺の自然を守る会

◆学校関係：伝統文化と環境福祉の専門学校、佐渡市立行谷小学校

◆行政機関：環境省佐渡自然保護官事務所

◇事務局：佐渡地域振興局地域整備部、佐渡市役所建設課、佐渡市役所農林水産課

問い合わせ先 新潟県 佐渡地域振興局地域整備部 担当) 計画調整課 水倉、藤澤

TEL：0259-74-4040 FAX：0259-74-2048 Email：fujisawa.masamichi@pref.niigata.lg.jp